

第1・2学年 国語科

1 学年の目標

- (1) 相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
- (2) 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。
- (3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

2 指導の要点

話すこと・ 聞くこと	<ul style="list-style-type: none">・身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。・相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。・姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。・大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。・互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。
書くこと	<ul style="list-style-type: none">・経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。・自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。・語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。・文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。・書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。
読むこと	<ul style="list-style-type: none">・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。・場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。・文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。・文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。・楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

<p>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり，発表し合ったりすること。 ・言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ・音節と文字との関係や，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。 ・言葉には，意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 ・長音，拗（よう）音，促音，撥（はつ）音などの表記ができ，助詞の「は」，「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 ・句読点の打ち方や，かぎ（「 」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。 ・文の中における主語と述語との関係に注意すること。 ・敬体で書かれた文章に慣れること。 ・平仮名及び片仮名を読み，書くこと。また，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。 ・第1学年においては，学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ・第2学年においては，学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第1学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第2学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。
-----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 内容の取り扱い

(1) 「話すこと・聞くこと」について

- ① 低学年の児童は，身近なことに興味や関心をもち，それらのことについて意欲的に話したり聞いたりしようとする。このような時期に，「事柄の順序を考えながら話す」能力や「大事なことを落とさないように聞く」能力，「話題に沿って話し合う」能力を育成し，「進んで話したり聞いたりしようとする」態度を育てることが主なねらいである。したがって，学習において，以下のような点に留意するべきである。
 - 身近なことや経験したことなどから話題を設定し，それに合わせて必要な事柄を取材させる。
 - 取材は，準備の段階で十分行わせるとともに，実際に話したり聞いたりするときに，さらに必要な材料を集めさせる。
 - 話の相手としては，教師や隣に座っている友達，同じグループの友達，幼稚園児や保育園児など身近な人々が考えられる。人数についても，ペアから小グループ，クラス全体へと広げていく。
 - 低学年の児童にとって，話す内容を構成することは容易ではないので，最初は取り上げる事柄の順序に沿って内容を考えさせ，次第に経験したことの順序や物事が起こった順序などに気を付けて内容を構成できるよう指導する。
 - 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと，背筋を伸ばし，声を十分出しながら落ち着いた気持ちで話すことを指導する。また，相手に声が届く音量で話すことや，明瞭に聞こえる速さで話すことにも留意させる。
 - 重要な事柄を聞き落とさないために，事柄の順序を意識しながら聞くことと，集中して聞き取ることを指導する。
 - 話し合いでは，話し手の方に顔を向け，話の内容に関心をもって，うなずきながら聞くよう指導する。また，話し合いの流れから今後の展開を考えさせたり，話し合いの終わりに学習の振り返りをさせたりする。

- ② 「話すこと・聞くこと」の指導内容については、次のような言語活動を通して指導する。

ア	事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。
イ	尋ねたり応答したり、グループで話し合っ て考えを一つにまとめたりすること。
ウ	場面に合わせてあいさつをしたり、必要なこと について身近な人と連絡をし合っ たりすること。
エ	知らせたいことなどについて身近な人に紹介 したり、それを聞いたりすること。

(2) 「書くこと」について

- ① 低学年では、経験したことや想像したことなどについて、順序に沿って、簡単な構成を考えて文や文章を書くことが主なねらいであり、書くことによって取り上げた対象や自分の思いを伝えることができる楽しさを味わわせること、発表し合うことによって評価される喜びなどを実感させることが重要である。したがって、学習において、以下のような点に留意するべきである。
- 書くことを国語科に限定するのではなく、日常生活や他教科と関連付け、児童一人一人の気持ちや経験を大切に、楽しんで書けるよう工夫する。
 - 構成を考えることによって自分の考えを明確にしていくことを重視し、「初め—中—終わり」などの文章構成も意識させる。
 - 前後の語句や文のつながりを大切に、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えて書くことを指導する。また、離れたところにある語と語や文と文とのつながりについても考えさせる。
 - 長音、拗音、促音、撥音などを正しく表記すること、助詞、句読点、かぎなどを正しく使うことを指導するとともに、主語と述語との関係にも注意させる。
 - 書いたものを読み合い、感想を互いに伝え合う場を設定する。そして、相手の感想を受けて自分の文章を振り返らせる。
- ② 「書くこと」の指導内容については、次のような言語活動を通して指導する。

ア	想像したことなどを文章に書くこと。
イ	経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。
ウ	身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。
エ	紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。
オ	伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。

(3) 「読むこと」について

- ① 低学年では、書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けることが求められている。そして、読書に親しみ、読書を通して生活を豊かにすることを目指している。したがって、学習において、以下のような点に留意するべきである。
- 教師が読んだ後に児童に読ませたり（追い読み）、グループで役割読みをさせたりするなど音読の方法を工夫するとともに、繰り返し音読する機会を設ける。
 - 自分の声を自分で聞きながら音読する習慣を付けたり、他の人に聞いてもらったりして、児童が聞くことを意識できるような指導を工夫する。
 - 説明的な文章の読み取りでは、時間の順序、事柄の順序に加え、文章表現上の順序にも留意させる。
 - 文学的な文章の読み取りでは、物語の展開に即して各場面の様子の変化したり、中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。

- 自分の考えをまとめさせるために、文章に書かれている大事な言葉や文を書き抜き、それらの言葉や文について自分の感想や考え、体験を書き添えさせる。
- 入門期においては、易しい読み物の読み聞かせやストーリーテリングなどを通して、読書に興味をもたせる。

② 「読むこと」の指導内容については、次のような言語活動を通して指導する。

- ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。
- イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。
- ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。
- エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。
- オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。

(4) 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕について

- 昔話や神話・伝承の指導は、児童の発達の段階や初めて古典を学習することを考慮して、易しく書き換えたものを取り上げる。低学年では、読み聞かせをすることで、伝統的な言語文化に触れることの楽しさを実感できるようにする。
- 「言葉の特徴やきまりに関する事項」では、表現したり伝達したりする言葉の主要な働き、音節と文字との関係やアクセントによる語の意味の違い、語句、語彙などの言葉のまとまりに気付かせる。
- 表記の仕方について国語科に限らず、さまざまな書く機会をとらえて指導する。
- 文章を読んだり表現したりするとき、主語と述語との関係を強く意識できるように指導を工夫する。
- 相手や場に応じて、言葉の使い方が変わることを意識させ、敬体で書かれた文章に慣れさせる。
- 基礎的な平仮名及び片仮名の読み書きが確実にできるよう指導する。
- 漢字の読み書きについては、書き方の習得に時間がかかるという実態を考慮し、書きの指導は2学年間という時間をかけて、確実に書き、使えるよう指導する。第1学年の配当漢字には、象形文字や指事文字が多く含まれるので、漢字の字形と具体的な事物とを結び付けるなどの指導を工夫し、漢字に対する興味や関心を高められるようにする。

4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
国語への関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、進んで話したり聞いたり書いたり、楽しんで読書したりしようとする。
話す・聞く能力	相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさないように聞いたり、話題に沿って話し合ったりしている。
書く能力	経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書いている。
読む能力	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりして本や文章を読んでいる。
言語についての知識・理解・技能	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく丁寧に書いている。